

ピカソロジックと マン・レイソリューション

TSC コンサルティング 勝呂 隆男

ピカソから発想を得て

適正在庫の理論 APIM を知らない人はいても、ピカソの絵画を知らない人はいないと思います。本誌の読者であっても同じでしょう。このエッセイは、ピカソの絵画と APIM に関係があるのだという話から始まります。

一昨年秋、東京六本木で大々的なピカソ展が開催され、筆者は10回前後も足を運びました。その結果、適正在庫理論の中核をなす、安全在庫算出技術に飛躍的なブレークスルーが起こったのです。新しい技術には、ピカソの絵に発想を得て生まれたことから「ピカソロジック」という名前がつけられました。

なぜその結果なのかをご説明しましょう。ピカソ展開催当時、当社 TSC コンサルティングは、大学の SCM 研究者と産業界の有識者を集めて「タイムエンジニアリング研究会」を主催・運営していました。その一環で筆者は「あんそも研究」という自主研究を始めました。「あんそも」とは「安全在庫とはそもそも何だろう」の短縮形です。

適正在庫の研究を深めていくと、安全在庫とはそもそも何なのかという本質的な疑問が湧いてきて、これをじっくりと考えてみようという気になったのです。そんな時に出会ったのが、ピカソの絵というわけです。

複数視点の統合表現

ピカソ展にはじめて行った日に、お気に入りになった絵の1つに「マリー・テレーズの肖像」という作品があります。ピカソの4番目のミューズであったマリー・テレーズという心の優しい女性の肖像です。とても気に入ったので、この絵をプリントしたマグカップを購入して家に帰り、大好

きなコーヒーを注ぎました。ひとくち飲んだあと、両手でカップを持って、絵を眺めているときです。「あっ」と声をあげてしまう発見がありました。「ふたつの顔が描かれている！」

この絵に描かれているマリーの顔は、正面から見た像と左横からみた像が、それぞれ別個に描かれていて、しかも1つの顔としてまとまって成立していたのです。複数視点の画像の統合表現！偶然指が、カップサイズになった絵の一部分を隠した拍子に気づいた発見でした。とてもうれしくなりました。

そしてその瞬間、当時ずっと考え続けていた安全在庫の本質についての疑問が、パッと解決しました。「そうか、安全在庫はひとつじゃなかったんだ！」古典理論では、安全在庫は需要変動を吸収するために保有する在庫であるとされていたのですが、なにもそれだけである必要はなかったのです。

複数の安全在庫を統合

需要予測誤差を吸収するために保有する安全在庫もあれば、歩留り変動を吸収する安全在庫や、納期遅れに対応する安全在庫など、複数種類の安全在庫があってよかったのです。そして、それら複数種類の安全在庫を、ピカソのようにそれぞれ別個に算出して、最終的に1つの値に統合する。つまり、重ね合わせ計算をすればいい。

あとは、数学的な理論検討と、コンピュータプログラミングの繰返して、アルゴリズムを洗練させていけば…と、連日ピカソ展に通いながら研究開発作業を進めて行きました。その結果生まれたのが、「適正在庫算出システム APIM III」、APIM の第3バージョンです。APIM II まででは、定期発注方式の安全在庫を、生産管理方式の分析を基

に実効リードタイム分布を求めた後、それに基づいて算出するという方法をとっていました。生産管理方式が複雑になると、実効リードタイム分布の算出も複雑になり、この方法の限界を感じる事が、ときどきありました。

複数種類の安全在庫を個別に求めるという発見は、その限界をクリアに突破するものだったのです。ソフトウェア完成後、ペんてる様で1年以上かけて実証実験を行っていただいた結果、実際に使えるということが証明され、現在続々と水平展開中です。

このように、適正在庫算出システム APIM III には、ピカソの絵からのヒントによって生まれた技術が盛り込まれているのです。絵の具メーカーでもある、ペんてる様のご支援のおかげでその効力が実証されたことにも、不思議な縁を感じてしまいます。

マン・レイの不条理芸術

APIM と芸術には縁があるというお話には続きがあります。今度は、「マン・レイソリューション」といいます。

今年東京で「マン・レイ展」という美術展が開催されました。ピカソ展と同じ六本木の国立新美術館です。これにも筆者は何回か足を運びました。

マン・レイは写真家として知られていますが、写真だけでなく絵画やオブジェなどさまざまな方面で芸術作品を残しています。シュルレアリスムなど不条理系の芸術家としても知られています。マン・レイは「芸術で大切なのは、何を表現しようとするかというアイデアそのものである」と主張していたそうです。ところが、最初に展示をみて残った印象は、表現技法の斬新さばかりで、彼が何を表現しようとしていたのかがまったくつかめていませんでした。そこで、すぐさま展示会を再訪しました。順路をなんども進んで戻って作品を観ていますと、なにやら心がうきうきして楽しくなります。作品そのものは決して楽しいモチーフばかりを描いたものではないのですが、作品群にひたっていると、楽しい気持ちが湧き上がってくるのです。そこでハタと思いつきました。マン・レイは、「世界は楽しいんだ」ということをい

いたかったのだと。そしてこれが不条理芸術というものではないのかと。

不条理な世の中を認めてしまう

生産管理の仕事をしていると、不条理な経験をする事が多いと思います。顧客から突然の無理な注文をうけたり、取引先が約束納期を守ってくれなかったり。しかも、製品の納入先である顧客側と、部品や材料の調達先である取引先との、両方の板挟みにあうことや、営業部門と製造部門の両方から無理難題を押しつけられて苦勞することもあります。自分の責任ではないことで、責められること、つまり、不条理そのものの世界といってもいいでしょう。

ここで、マン・レイにもどって不条理芸術を説明すると、つまり、こういうことではないかと筆者は思います。世界は不条理に満ちているけれども、それを認めてしまおう。いやなことやつらいことは多いけれども、ときどき楽しいことやいいことがおこるから許せるよってことではないかと。

そういう不条理が世の常であると、現実を飲み込んでしまい、そのうえでの処し方を考えるための技術を開発した結果生まれたのが、マン・レイソリューションなのです。

納期遅れを前提に

例えば、納期遅れが起こるのは世の常です。ならば、それを前提に解決策を考えようという発想です。取引先に、どんなに厳しく納期遵守を要求しても、やむを得ない遅延は起こり得ます。この現実をふまえ、完全な納期遵守を前提とするのではなく、遅延確率をリードタイム分布に織り込んだ適正な安全在庫を APIM で算出・設定することにより問題解決を図ろうという発想なのです。

昨今の世の中は、確かに不条理なことが多いように思えますが、それが現実だと明るく受け入れて、なんとかしようではありませんか。

筆者：すぐろ たかお 代表取締役社長
所在地：〒230-0062
横浜市鶴見区豊岡町11-1-304
TEL：045-574-4532
URL：http://www.tscinc.co.jp